

平成21年12月3日

さわやかな風の会視察報告(平成21年度)

東御市議会議員 若林 幹雄

日時：平成21年11月18日(水)～20日(金)

- 場所：① 鳥取県境港市誠道小学校
② 鳥取県境港市水木ロード
③ 米子市立図書館(鳥取県米子市)
④ 島根県松江市

参加者：長越修一、依田俊良、石和大、井出進一、若林幹雄

■ はじめに

18日から20日まで「さわやかな風の会」の行政視察で鳥取県と島根県に行ってきました。鳥取県では境港市の「学校の芝生化」と「水木しげるロード」について、米子市の「学校図書館」について視察しました。島根県では松江市の「中心市街地活性化事業」と、出雲市の「島根ワイナリー」を視察しました。以下、視察の概要について報告いたします。

1、校庭の芝生化への取組み(境港市誠道小学校)



(写真)誠道小学校の先生と一緒に写真を撮りました。前列がお世話になった先生。後列左から井出議員、石和議員、長腰議員、依田議員、若林議員。

11月18日、午後境港に着き早速市内の誠道小学校を訪ねました。もともと鳥取県は学校の芝生化の先進地で鳥取方式といわれています。

す。誠道小学校の児童数は百数十名。芝生化に取り組んだのは平成20年7月。児童・先生・保護者・地域の皆さんはじめ250名の協力でグラウンドの北側3千平方メートルに芝を植え付けたそうです。

芝生化にかかった費用は約2百万円。内訳は苗代40万円、冬芝代7万円、肥料代4万円、芝刈り機60万円、ガソリン代4万円、スプリンクラー設置費用(材料費のみ)35万円、地下水をくみ上げるための電動ポンプ代35万円、肥料種子散布機13万円だったそうです。お隣の小諸市が1千数百万円と聞いていたので意外でした。

年間のランニングコストは約30万円。内訳はガソリン代3万円、冬芝代7万円、肥料代10万円、芝刈り機部品代6万円、雑費4万円です。維持管理は4月から12月まで毎月肥料を施し、芝刈りは6月から10月までは月4回実施、灌水は梅雨から9月中旬までの雨の少ない時期に天候を見ながら行ってきたそうです。

1年を経過しての感想は「子どもが外でよく遊ぶようになった」、「芝生化したことで涼しくなり環境が変わった」、「芝生の緑に癒された」などです。学校では芝生化について児童や保護者、地域の方々、教職員に対してアンケートを実施しています。それによれば「芝生が大好き」「まあまあ好き」と回答してくれた子ども達は85%に達しています。また「芝生化後子ども達に変化は見られますか」という質問に教職員の94%が「大いに見られる」と回答しています。

芝生化は確実に成果をあげていると感じました。先生がひとつのエピソードを紹介してくれました。視察に来たある自治体の議員さんが遊んでいる子供さんに「芝生ははどう?」と聞いたそうです。「超気持ちいい」ーこれがその答えだったそうです。

1時間半ほどの視察でしたがとても良く教えていただき有益でした。境港市では平成22年度にはすべての小学校で芝生化にとりくむそうです。

2、水木しげるロード（境港市）

境港市では「水木しげるロード」を視察しました。港市は古くから天然の良好として栄え港を中心に発展してきました。しかし水揚げ量の減少など漁業の不振が続く中、商店街はさびれる一方でした。

こうした現状を打破するために、平成元年からまちづくりを検討する中で、地元出身の漫画家水木しげる氏の妖怪オブジェ・モニュメント・絵タイルを歩道に配置し、「水木しげるロード」として整備しようという構想が生まれました。妖怪オブジェといっても怖い



イメージではなく、誰もが触れて楽しめ親しみやすいものです。彫刻と黒御影石の台座が一体化し、これまでにない新しい町並みを形成しています。

当初は「そんなものが店の前にあればお客は逃げてしまう」などと妖怪に対する反発もありました。しかし、マスコミで大きく取り上げられたり、観光客が徐々に訪れる中で商店街の売り上げも伸びてきたそうです。そんな中、これまで反対していた商店も「うちの前にもぜひ置いてくれ」と言うようになったそうです。

こうしてJR境港駅から商店街まで約800メートルの沿線に、妖怪オブジェ102体、妖怪レリーフ5基、絵タイル8枚が設置され、アーケードも改装され、公衆トイレ、ポケットパークなどが整備されました。その後妖怪オブジェも徐々に増え現在134体になっています。

このほか住民による鬼太郎をテーマにしたまちづくりへの取り組みが行われ、ゲゲゲのしげる会、水木ロードを育てる会、鬼太郎温度保存会などが活動しています。商店街としてもゲタ飛ばし大会、妖怪オブジェコンクール、境港妖怪ジャズフェスティバル、妖怪川柳コンテスト、境港妖怪検定など多面的なイベントを開催するまでになっています。こうした中で観光客も右肩上がりに推移し、平成20年度には172万人になっています。

こうした取り組みが成功したのは、なによりも地域を活性化したいと願う地元の熱意と、いつまでも故郷を大切にしようとする水木氏の思いがあったからこそです。それにしても妖怪を地域活性化の起爆剤にしてしまった境港の皆さんのエネルギーにはただ脱帽するばかりです。

3、米子市立図書館（米子市）

11月19日は米子市立図書館を訪問しました。米子市は鳥取県西部、山陰の中央に位置する人口15万人、6万2千世帯の市です。古くから商業都市として栄え、JR山陰本線、伯備線、境線の結節点であり、米子自動車道、山陰自動車道、米子空港など山陰の交通の要衝でもあります。鳥取大学医学部や山陰放送があり山陰の拠点都



市の1つとなっています。

米子図書館は蔵書数23万8千冊、職員は14名。週2回市内16箇所を巡回する移動図書館車を有し、平成15年には子ども読書推進活動で文部科学大臣賞を受賞しています。とりわけ米子図書館は米子方式というユニークな取り組みをしていることで知られています。

米子市は市民の陳情に応えるために、平成9年度から専任の図書館職員を市内の小中学校・養護学校など34校全てに配置。その後平成14年からは司書教諭を配置すると言う先進的な取り組みを行ってきました。

平成13年には市の公用車を活用した配本システムをスタートしました。これが米子方式と呼ばれるものです。子どもたちは市立図書館まで出向かなくても、リクエストすれば市の公用車で届けてもらえます。現在では火・木・金曜日に配本するなどきめ細かなサービスを実施しています。そのほか朝の読書用の図書の場合は年2～3回の長期貸出を実施しています。

こうした中でリクエスト貸出は現在1万1500冊、長期貸出は1万9000冊になっています。学校図書館からの問い合わせも年間1700件にのぼっています。こうして図書館が学校教育を応援する仕組みが出来あがっています。

そんな取り組みを行っている中で、年間行事など郷土資料が不足していることに気がつきました。こうして「ふるさと米子探検隊」というブックレットを発行するようになったそうです。現在までに13号まで発行しています。ちなみにテーマは「民話マップの巻」「米子城入門の巻」「お寺や神社を調べてみようの巻」などとなっています。

図書館というどうしても「待ち」の姿勢です。市民に来ていただくことが第一です。しかしこの図書館は違います。子どもたちや市民に本の出前サービスを実施し、リクエストにお答えし、さらに不足している資料は自分達で作ってしまうという行動派でもあります。これは図書館としての本来あるべき姿ではないでしょうか。振り返ってみてわが町の図書館はどうでしょうか。

最近パソコン・DVD・インターネットなどのバーチャル図書館が話題になっていますが、それよりも調べものをする時、親身になってお手伝いいただけることが図書館の原

点だということをあらためて認識させられました。

4、松江市中心市街地活性化事業（島根県・松江市）



(写真)松江城を背景に写真を撮りました(左から2人目)。

は松江開府400年です。

19日午後は松江市を訪問しました。松江市は城下町です。江戸初期、堀尾吉晴が5年の歳月をかけて松江城を築城、その後京極氏1代、松平氏11代の居城となりました。全国で現存する12天守の一つで山陰で残る唯一のものです。今年

松江市は人口19万3千人、7万7千世帯。島根県庁所在地です。松江市は「すんでよし、訪れてよしの“松江らしい”まちづくり」を掲げ、「住み続ける暮らしの中に流動性を生み出す」をモットーに平成20年から中心市街地活性化に取り組んでいます。

ご多分に洩れず松江市においても、中心市街地の人口はここ15年で4千人減少、中心市街地商店街の販売額もここ7年間で545億円から443億円に100億円も減少しています。これに引き替え駐車場は20年間で1.5倍となり、低未利用地が急増しています。

松江市は中心市街地の活性化にあたり3つの目標を設定したそうです。

- 1、観光客の増加ー中心市街地が元気になるにはやはり「観光客」です。
- 2、歩行者と自転車の通行量の増加ー「近隣から訪れる人」も大切です。
- 3、中心市街地の居住人口の増加ー大切なのは「まちなか居住」です。

これまで様々なハード、ソフト事業を行ってきましたが課題は「まちなか居住」だそうです。平成19年の1万5713人が平成21年には1万5567人。130人減少しています。原因は住宅や店舗の流動化が進まないことだそうです。

廃業したからといって店舗を貸すには抵抗があるようです。たとえ住まなくなっても

家財道具があるので貸家にできないという事情もあるようです。また借りる方からすれば中心市街地は空き店舗が多く生活に不便だという思いもあります。

中心市街地の活性化の困難さをあらためて認識しました。いくらハードやソフトに金をかけても、そもそも貸主、借りる方双方のニーズがマッチングしていないことが問題です。だからこそ「住み続ける暮らしの中に流動性を生み出す」というテーマを掲げたのでしょう。一朝一夕に解決することは難しいでしょうが考えていかねばならないと感じました。

■ おわりに



私はせっかく松江まで来たので、ぜひ訪れてみたいところがありました。それは雷電為衛門の顕彰碑です。この碑は昭和31年(1956年)に雷電の荣誉と松江藩とのつながりを記念して、藩主の菩提寺である月照寺(松江市)に建立されたものです。

天明四(1784)年、18才で江戸に出てきた雷電は、第7代松江藩主不昧(ふまい)公に気にいられ、終生松江藩のお抱え力士となります。

相撲が全盛の江戸時代、力士は藩の力と威信を誇示する広告塔でもありました。松江藩でも多くの力士を抱え雲州力士と呼ばれ、相撲界で欠くことができない存在だったそうです。「雷電」の四股名はもともと雲州ゆかりのもの。為衛門以外にも雲州力士として雷電を名乗る力士がいたそうです。

月照寺は松江市役所の近くにありました。大きなお寺のようで拝観料を徴収していました。参拝するわけではないのでどうしようか迷っていたら、同僚議員が「そこにあるじゃない」と言いました。見ると入り口のそばにその碑はありました。早速記念写真を撮りました。

郷土の英雄がこんなところに足跡を残していることにとても誇らしい気持ちになりました。